

平成15年10月28日  
 青森統計・情報センター発表

## 平成15(2003)年産水稻の作付面積及び予想収穫量(青森) (10月15日現在)

### 【調査結果の概要】

- 平成15年産水稻の作付面積(青刈り面積控除後)は5万2,100haで、前年産に比べて500ha減少した。
- 10月15日現在における作柄は、10a当たり収量308kg、作況指数は53が見込まれる。
- 予想収穫量は16万500tで、前年産に比べて13万8,300tの減少が見込まれる。

図1 地帯別作柄概況(参考)

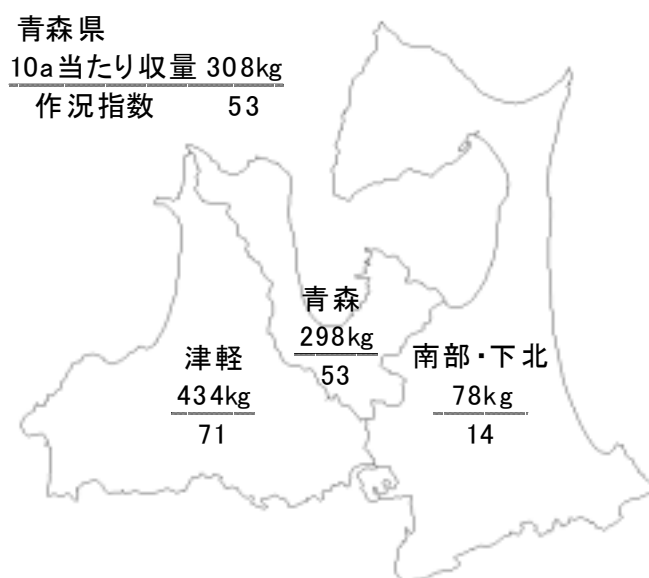


表1 水稻の作付面積及び予想収穫量(10月15日現在)

区分	作付面積	10a当たり収	収穫量	作況指数	前年産との比較		
					作付面積	10a当たり収	収穫量
	ha	kg	t		ha	kg	t
青森県 (参考)	52 100	308	160 500	53	500	260	138 300
青森地帯	4 320	298	12 900	53	150	239	11 100
津軽地帯	31 000	434	134 500	71	600	165	54 800
南部・下北地帯	16 800	78	13 100	14	300	440	72 400

注：1 計と内訳はラウンドのため一致しない場合がある。

2 「-」は、マイナスを示す。

## 【解 説】

- 1 本年の水稲作付面積（青刈り面積控除後）は5万2,100haで、前年産に比べて500ha減少した。  
これは、主に宅地・道路用地等への農地転用により田耕地が減少したことや、生産調整の拡大に伴い大豆、麦等へ転換されたことによる。
- 2 田植え後の生育は、5月下旬から6月中旬までの天候がおおむね平年並みに経過し、初期生育は良好だったものの、6月下旬からは低温・日照不足の影響で生育は緩慢となった。
- 3 出穂最盛期は、6月下旬から続いた低温・日照不足の影響により、県平均で平年に比べて6日遅い8月13日となり穂揃いは「やや不良」となった。
- 4 穂数は、弱小茎の枯れ上がりが少なかったことから「やや多い」となった。1穂当たりもみ数は、幼穂形成期・減数分裂期の低温・日照不足により「少ない」となった。このため全もみ数は「少ない」となった。
- 5 登熟は、穂ばらみ期、開花受精期間の低温・日照不足の影響を強く受けたことから、稔実が阻害され不稔もみが多発したことに加え、9月中旬の台風14号の影響及び、引き続き低温・日照不足、更にいもち病が進行したことから、粒の充実も抑制され「不良」が見込まれる。
- 6 刈取最盛期は、出穂が遅れたことに加え、登熟期間の気温も低く経過したことから平年に比べて10日遅い10月13日となった。
- 7 被害概況については、6月下旬以降登熟後半までの低温・日照不足による冷害といもち病等の発生が多くみられる。
- 8 以上のことから10月15日現在における作柄は、10a当たり収量は308kg、作況指数53が見込まれる。
- 9 主要品種別の作柄は、「つがるロマン」については、津軽地帯に作付けが多いことから、作況指数は66が見込まれる。「ゆめあかり」については、南部・下北地帯での作付けが多いことから作況指数は36が見込まれる。「むつほまれ」については、作況指数50が見込まれる。

(参考1) 平成15年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a 当たり収量内訳

この調査における収穫量は、「飯用に供し得る米」として目幅1.70mm以上のふるい目を用い選別した玄米の量としている。ただし、被害粒等の混入が多く収量基準である農産物検査規格3等の品位に達しない場合は、被害粒等を控除する方法により再選別をした玄米の量としている。一方、農家等が選別に用いているふるい目幅は、産地・品種等により異なっている。

参考までにふるい目幅別重量割合と、収量内訳を示すと次のとおりである。

単位 { 重量割合：％  
平均対差：ポイント  
収量内訳：kg

区 分	合 計	2.10mm以上	2.10mm未満 ～ 2.00mm以上	2.00mm未満 ～ 1.90mm以上	1.90mm未満 ～ 1.85mm以上	1.85mm未満 ～ 1.80mm以上	1.80mm未満 ～ 1.70mm以上
		青 森 県 再選別前	100.0	18.2	34.7	31.6	6.1
再選別後	100.0	22.0	42.5	26.3	4.0	2.9	2.3
平均対差	-	11.3	4.0	6.6	0.6	0.6	0.5
( 収 量 内 訳 )	(308)	(68)	(131)	(81)	(12)	(9)	(7)
青森 再選別前	100.0	20.1	37.8	25.7	6.2	4.4	5.8
再選別後	100.0	24.5	46.1	19.4	4.3	2.5	3.2
平均対差	-	2.5	4.4	2.1	0.4	0.0	0.2
( 収 量 内 訳 )	(298)	(73)	(137)	(58)	(13)	(7)	(10)
津軽 再選別前	100.0	19.8	34.1	34.4	5.2	3.7	2.8
再選別後	100.0	19.9	34.2	34.3	5.1	3.7	2.8
平均対差	-	18.7	1.1	15.3	2.3	1.7	0.5
( 収 量 内 訳 )	(434)	(86)	(148)	(150)	(22)	(16)	(12)
南部・下北 再選別前	100.0	14.8	34.7	28.2	7.8	6.6	7.9
再選別後	100.0	25.4	56.4	13.4	2.0	1.5	1.3
平均対差	-	0.3	12.9	7.1	2.3	1.4	2.4
( 収 量 内 訳 )	(78)	(20)	(44)	(10)	(2)	(1)	(1)

- 注：1 県平均及び作柄表示地帯別については、水稲作況標本におけるふるい目調査結果の作付面積に基づく加重平均である。
- 2 平均対差は再選別後の重量割合と直近3か年の重量割合の平均値との差である。
- 3 (収量内訳)は、10a 当たり収量を再選別後の重量割合で試算した値である。

(参考2) 平成15年産水稲10a 当たり玄米重の状況

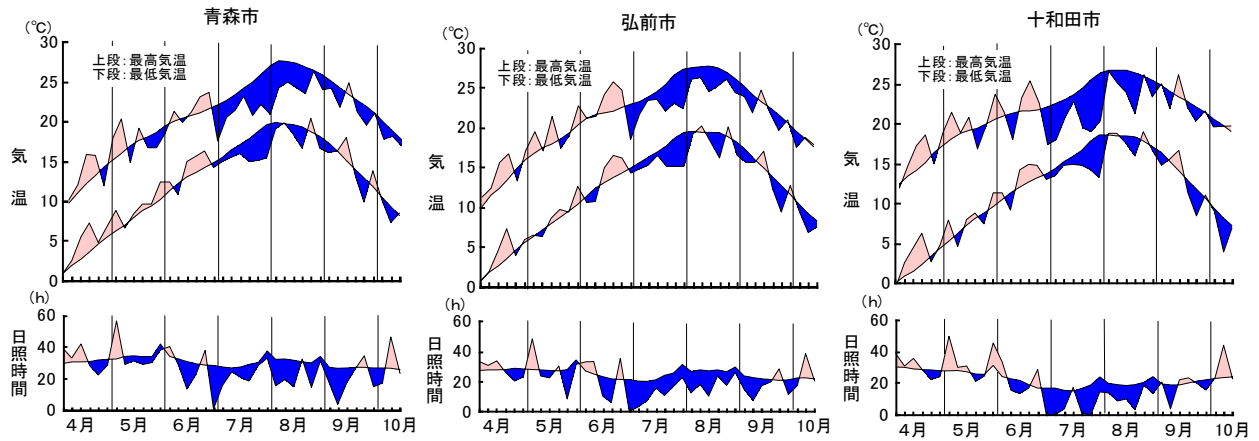
単位：kg

区 分	青森県	青森地帯	津軽地帯	南部・下北地帯
10a 当たり玄米重 (最小～最大)	0 ～ 687	0 ～ 499	0 ～ 687	0 ～ 474

注：10a 当たり玄米重とは、作況標本筆（調査を実施するほ場）において刈取り実測を行った結果であり、通常コンバイン刈りによって生じる収穫ロスは考慮していない数値である。

(参考3)

## 平成15年半旬別気象図



資料：青森地方気象台

### 【利用上の注意】

- 1 作況指数とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり(予想)収量の比率である。
- 2 作柄表示地帯に包括される地域は以下のとおりである。

青森地帯 [ 青森市、東津軽郡 ]

津軽地帯 [ 弘前市、黒石市、五所川原市、西津軽郡、中津軽郡、南津軽郡、北津軽郡 ]

南部・下北地帯 [ 八戸市、十和田市、三沢市、八戸市、むつ市、上北郡、三戸郡、下北郡 ]

連絡先：東北農政局青森統計・情報センター TEL 017 (734) 5513 内線303

生産流通消費統計課 生産統計第2係 FAX 017 (775) 7971

ホームページ【<http://aomori.info.maff.go.jp/>】